

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100011		
法人名	社会福祉法人真栄会		
事業所名	グループホーム菜のはな		
所在地	佐賀県神埼市詫田989番地		
自己評価作成日	令和4年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年2月21日	外部評価確定日	令和4年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・ご利用者一人一人に合った言葉掛けを行い、コミュニケーションを図りながら『その人の思い』に伝えられるよう職員間で情報を共有している。・協力医療機関医師、看護師と連携をとり、ご利用者の健康管理を行っている。・重度化された場合や医療が必要となられた際は、隣接する特別養護老人ホーム入所がスムーズに行えるよう支援している。・平成24年に特浴を設置し、普通浴での入浴が困難になられた方も身体に負担なく入浴をされている。・外出が困難な時期は、気候に合わせて近隣の散歩や外気浴を行い、気分転換を図っている。・月行事におやつ作りや誕生会、お茶会等、ご利用者が好まれるような行事を計画し実行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホーム菜のはなは、リビングの大きな窓から玄関を出れば、田園風景が広がっており、季節を感じる事が出来る。コロナ禍において、感染対策を講じる中、天気良ければ近隣を散歩したり、玄関で日向ぼっこをすることも出来る。現在、面会は、ホーム内でも玄関先とリビングの間のドア越しであれば可能となっている。ホーム内のタブレットを使用し、ラインやZOOMでオンライン面会をする事も可能である。</p> <p>特別養護老人ホームやケアハウス、サービス付き高齢者住宅などが同一法人にあり、隣接していることから、行事等での交流があり、また、緊急時等も協力体制がある。</p> <p>ホームでは、5年ほど前より、レクリエーション担当の職員が週3回来訪するようになってから、入居者の方が、より活気が出てきたとの事。調査時、入居者の皆様はリビングで過ごされており、皆さんで自発的に歌を唄ったりと、生き生きとした表情があった。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染症対策のため外部との接触を中止している。理念としている、『地域との関わり』が思うようにできていないが、日常生活の中での言葉掛け等を通じ、『その方の思い』『願い』を聞きだし介護士会議の中でケース検討を行い、職員間で共有し、「楽しく安心できる心地よい居場所」の提供につなげている。	新型コロナウイルス感染症対策のため外部との接触を中止している。理念としている、『地域との関わり』が思うようにできていないが、日常生活の中での言葉掛け等を通じ、『その方の思い』『願い』を聞きだし介護士会議の中でケース検討を行い、職員間で共有し、「楽しく安心できる心地よい居場所」の提供につなげている。	事務所内に掲げられた理念は、グループホーム独自で作成されたものであり、地域密着型施設としての内容となっている。「住み慣れた地域で地域との関わりを持ちながら、自由に楽しく安心して生活できる、心地よい居場所を提供する」の理念は、現在はコロナ禍であり、地域との関わりが出来ない状況であるが、笑顔の多い入居者の方を見ると、心地よく過ごされていることが分かる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度に続きコロナ禍でできなかった。法人で行う恒例行事には、『夏祭り・敬老会・避難訓練』があり、地域の方々の参加もあっている。顔見知りの方々との交流も図っている。また、近隣への買い物や外食等を月行事に計画し、実行している。地域の一員として暮らしていけるようなサービスを提供している。	前年度に続きコロナ禍でできなかった。法人で行う恒例行事には、『夏祭り・敬老会・避難訓練』があり、地域の方々の参加もあっている。顔見知りの方々との交流も図っている。また、近隣への買い物や外食等を月行事に計画し、実行している。地域の一員として暮らしていけるようなサービスを提供している。	夏祭りや敬老会のイベントは、コロナ禍においては、入居者と職員のみで開催されたとの事。避難訓練もコロナ禍は地域の方々の参加は控えてもらっている。定期的な広報誌により、地域の情報は把握できる。また、缶拾いなどの清掃も、参加できない時は前日に行う等して努められている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人では行っているが、事業所では行っていない。	法人では行っているが、事業所では行っていない。	/		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中、外部との接触を禁止しているため、運営推進会議は行っていない。『報告書』という形式を取り、関係箇所に送付している。	コロナ禍の中、外部との接触を禁止しているため、運営推進会議は行っていない。『報告書』という形式を取り、関係箇所に送付している。	運営推進会議メンバーは、法人内職員のほかに、ご家族代表、民生委員、市職員、地域包括支援センターの方で構成されており、現在は資料(行事、活動、受診状況、事故など)送付での報告のみとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	例年は運営推進会議を通して意見や報告を行っていたが、今年度は密の連絡は行っていない。疑問点等の必要事項については、電話連絡を行っている。	例年は運営推進会議を通して意見や報告を行っていたが、今年度は密の連絡は行っていない。疑問点等の必要事項については、電話連絡を行っている。	今年度は市町村に連絡したことはないが、それ以前だと、生活保護の受け入れの紹介や、医療費控除(オムツ代)に関する相談を行ったとの事。何かあれば連絡・相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を定期的に開催し、事例を交えながら身体拘束になりうる行為、事柄の理解が出来るように指導を行っている。玄関は法人の方針で施錠を行っているが、外出の希望があれば職員が同伴している。	身体的拘束適正化委員会を定期的に開催し、事例を交えながら身体拘束になりうる行為、事柄の理解が出来るように指導を行っている。玄関は法人の方針で施錠を行っているが、外出の希望があれば職員が同伴している。	グループホームに委員会を設置し、毎月の介護士会議の中で開催されている。3か月に1回以上研修も行われており、拘束に関する知識を深められている。身体拘束を行わないケアをされており、併せて虐待に関してもグレーゾーンで悩むのであればしないようにと指導されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護士会議や職員が行う研修で『高齢者虐待』を議題にあげ、検討している。現状のサービスや言葉かけが適切か、常に念頭に置き、ご利用者と接している。また、職員間で注意しあえるような関係作りに取り組んでいる。	介護士会議や職員が行う研修で『高齢者虐待』を議題にあげ、検討している。現状のサービスや言葉かけが適切か、常に念頭に置き、ご利用者と接している。また、職員間で注意しあえるような関係作りに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過介護とならないようご利用者の『出来る事』を活かした介護を行っている。成年後見制度については実施していない。	過介護とならないようご利用者の『出来る事』を活かした介護を行っている。成年後見制度については実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項の内容を分かり易い言葉で説明し、理解された上で、同意を得ている。介護報酬、実費負担金改定時は文書にて説明を行い、同意を得ている。	契約書、重要事項の内容を分かり易い言葉で説明し、理解された上で、同意を得ている。介護報酬、実費負担金改定時は文書にて説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。電話連絡や面会時に意見、要望を尋ねている。ご家族からの要望や意見に関しては申し送りノートを活用し、職員に周知している。施設運営に関する事は法人施設長に報告を行い、改善している。	玄関に意見箱を設置している。電話連絡や面会時に意見、要望を尋ねている。ご家族からの要望や意見に関しては申し送りノートを活用し、職員に周知している。施設運営に関する事は法人施設長に報告を行い、改善している。	意見箱を設置されているが、来訪時や電話にて直接相談を受けている。 以前、空調の清掃に関する意見があり、行き届いていない事があり、すぐに業者にて対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	目標管理シート、自己評価表等を活用し、職員の意見や要望を聞き、年に2回、個人面談を行っている。出来る限りの改善や整備に努めている。	目標管理シート、自己評価表等を活用し、職員の意見や要望を聞き、年に2回、個人面談を行っている。出来る限りの改善や整備に努めている。	自己評価表をもとに、施設長、事務長、職員で三者面談が行われている。 最近では、コロナ禍で休まざるを得ない職員が出る状況もあり、「職員を増やしてほしい」との意見が多く、会社側は増員の為、求人募集に取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人施設長、事務長との面談を年に2回行い、目標進歩状況、勤務状況等を踏まえ、職場環境の整備、労働条件の整備に努めている。	法人施設長、事務長との面談を年に2回行い、目標進歩状況、勤務状況等を踏まえ、職場環境の整備、労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所でのケアの実態や力量の把握を行っている。リモートによる研修の機会を確保している。	事業所でのケアの実態や力量の把握を行っている。リモートによる研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	対面での外部研修は行っていない。リモートによる研修や勉強会には参加出来るよう取り組んでいる。	対面での外部研修は行っていない。リモートによる研修や勉強会には参加出来るよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前調査にてご本人、ご家族との面接を通じ、ご本人やご家族の思い、不安に思われる事などを確認し、安心して生活出来るよう努めている。	入居前調査にてご本人、ご家族との面接を通じ、ご本人やご家族の思い、不安に思われる事などを確認し、安心して生活出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な話し合い、聞き取りを行い、不安が払拭出来るようなサービスの提案を行っている。	十分な話し合い、聞き取りを行い、不安が払拭出来るようなサービスの提案を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況、情報をご家族の許可を得て各関連機関に情報提供をして頂き、サービスに反映させている。 他のサービスに関しては居宅支援事業所、法人と連携し、対応に努めている。	入居前の状況、情報をご家族の許可を得て各関連機関に情報提供をして頂き、サービスに反映させている。 他のサービスに関しては居宅支援事業所、法人と連携し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持ち、生活されるよう家事（洗濯物畳み、食器拭き、リネン交換等）ご利用者と一緒に行いながら出来ない箇所を必要に応じてさりげなく手伝いながら関係を築いている。	役割を持ち、生活されるよう家事（洗濯物畳み、食器拭き、リネン交換等）ご利用者と一緒に行いながら出来ない箇所を必要に応じてさりげなく手伝いながら関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中でもガラス越しにご利用者とご家族が会う機会ができるよう配慮し、また話が続かない方に対しては職員が付き添い、一緒に会話を行っている。	コロナ禍の中でもガラス越しにご利用者とご家族が会う機会ができるよう配慮し、また話が続かない方に対しては職員が付き添い、一緒に会話を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の事や幼少期の記憶など会話をすることで聴きとり、記憶が保てるように支援を行っている。面会が出来ない方は手紙、はがきなどで近況報告をされている。読むことが難しくなられた方に対しては代読を行っている。	ご家族の事や幼少期の記憶など会話をすることで聴きとり、記憶が保てるように支援を行っている。面会が出来ない方は手紙、はがきなどで近況報告をされている。読むことが難しくなられた方に対しては代読を行っている。	美容室やかかりつけ医の継続は可能である。また、携帯電話の持ち込みも可能、ホーム内の固定電話の使用も可能である。コロナ禍で、現在は、外出の制限がある。面会にも条件があり、オンラインを使用する際は、職員が付き添って説明等をサポートされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格、暮らされていた地域、以前からの知り合いなど把握し、馴染みの関係が出来るよう、職員が間に入りコミュニケーションを図っている。	ご利用者の性格、暮らされていた地域、以前からの知り合いなど把握し、馴染みの関係が出来るよう、職員が間に入りコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても併設の特別養護老人ホームの職員や居宅支援事業所と情報を共有し、相談や支援に努めている。また、ご家族からの相談があれば助言等を行っている。	サービス利用が終了しても併設の特別養護老人ホームの職員や居宅支援事業所と情報を共有し、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや要望など一緒に話をする中で聞き取り、可能な限り希望に添えるような支援を行っている。意思表示が困難な方に対しては、介護士会議でケース検討を行っている。	一人一人の思いや要望など一緒に話をする中で聞き取り、可能な限り希望に添えるような支援を行っている。意思表示が困難な方に対しては、介護士会議でケース検討を行っている。	普段の会話の中で情報収集されている。意思表示が難しい方は、ご家族に以前の情報をお聞きする等して収集されている。毎月の会議で、全員分のケース検討をされており、困難事例に関しては、別日を設け対応の検討をされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴、暮らし方などをご本人やご家族、担当ケアマネジャーより情報を収集し得た情報内容を職員に周知している。	入居前の生活歴、暮らし方などをご本人やご家族、担当ケアマネジャーより情報を収集し得た情報内容を職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録システム、管理日報、申し送りノートを活用し、現状の把握に努めている。状態変化時には適宜ケース検討を行っている。	介護記録システム、管理日報、申し送りノートを活用し、現状の把握に努めている。状態変化時には適宜ケース検討を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護士会議でケース検討を行いご利用者の状況や課題について話し合いを行っている。状態変化時にはご家族に報告を行い、その都度ケアプランの変更を行っている。	介護士会議でケース検討を行いご利用者の状況や課題について話し合いを行っている。状態変化時にはご家族に報告を行い、その都度ケアプランの変更を行っている。	毎月の介護士会議でケース検討をされ、プラン立案。アセスメント収集と、その項目ごとに課題分析をしっかりとされている。ご家族の意見は、来訪時や電話にて確認されている。担当者会議はコロナ禍においては職員のみとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を介護記録システムに記録し申し送りを行っている。支援経過、アセスメントの再確認、モニタリングを行い、直しを行っている。	日々の状況を介護記録システムに記録し申し送りを行っている。支援経過、アセスメントの再確認、モニタリングを行い、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の意向や状況により変化するニーズに対しては話し合いを重ね、出来る限り個人個人の意向に合うサービスを取り入れている。	ご家族の意向や状況により変化するニーズに対しては話し合いを重ね、出来る限り個人個人の意向に合うサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	前年度、今年度ともコロナ禍の中、実行する事が出来ていないが、例年は近隣への買い物、外食や馴染みの方に会いに外出を行っていた。	前年度、今年度ともコロナ禍の中、実行する事が出来ていないが、例年は近隣への買い物、外食や馴染みの方に会いに外出を行っていた。自宅と一緒に行き衣類や必需品を取りに行った際には近隣の方々とお話をされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にかかりつけ医についての希望を聞いている。協力医療機関に変更される場合は、医師同士の情報提供がスムーズに行えるようサポートを行っている。	入居の際にかかりつけ医についての希望を聞いている。協力医療機関に変更される場合は、医師同士の情報提供がスムーズに行えるようサポートを行っている。	協力医療機関のサポートがあり、入居時に主治医の変更も可能だが、それまでのかかりつけ医の継続も可能である。協力医療機関以外の受診は基本ご家族が対応する事となっている。緊急時やご家族が遠方の場合、職員が対応する事もある。また、受診時には、必要に応じて情報提供書を作成し、状況報告をされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時、些細な気づきなど看護師に報告を行い、相談している。特変時には指示にて協力医療機関受診につなげている。病院からの看護師訪問の際には、医療的処置の疑問点等相談を行っている。	状態変化時、些細な気づきなど看護師に報告を行い、相談している。特変時には指示にて協力医療機関受診につなげている。病院からの看護師訪問の際には、医療的処置の疑問点等相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族と共に受診し、病院関係者にご利用者の情報提供を行っている。状況によりご家族と共に医師からの説明を受けている。また早期に退院できるように医療連携室と連絡を取り合っている。	入院時にはご家族と共に受診し、病院関係者にご利用者の情報提供を行っている。状況によりご家族と共に医師からの説明を受けている。また早期に退院できるように医療連携室と連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、終末期に向けた施設の方針を説明している。 医師が『看取り』と判断しご家族に説明された後、事業所での看取りを希望された際は詳しく指針を説明し出来る処置、出来ない事の説明を行っている。系列の特養に入所希望された場合はスムーズに入所調整が出来るよう関係各所と連携を取っている。	入居時に重度化した場合、終末期に向けた施設の方針を説明している。 医師が『看取り』と判断しご家族に説明された後、事業所での看取りを希望された際は詳しく指針を説明し出来る処置、出来ない事の説明を行っている。系列の特養に入所希望された場合はスムーズに入所調整が出来るよう関係各所と連携を取っている。	看取り介護もされており、これまでに6件ほどの実績がある。そのような状況になれば主治医からの説明があり、また、ホームで出来る事等の説明をした上で、今後の方針を決めてもらう。看護師はいないが、協力医療機関のオンコール体制はある。看取りとなった際は、ご家族の泊まりも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年であれば法人では日本赤十字、消防署等の外部講師を招き研修を年に2回行っているが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となっている。	例年であれば法人では日本赤十字、消防署等の外部講師を招き研修を年に2回行っているが、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。事業所では水害訓練も独自に行った。（避難場所はサ高住）コロナ禍のため地域住民の参加はあっていない。	年に2回避難訓練を行っている。事業所では水害訓練も独自に行った。（避難場所はサ高住）コロナ禍のため地域住民の参加はあっていない。	火災訓練は夜間想定で行われている。出火場所を毎回変えており、その場所はその時にならないと分からないようにされている。消火器訓練も毎回実施。コロナ禍では地域住民の参加はないが、法人別事業所職員の応援はある。また、水害区域になっており、訓練も1回実施されたとの事。昨年大雨の際は、実際に避難されており、数日避難場所で過ごされた。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で接遇に取り組んでいる。職員同士が注意し合える環境を作り、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛け、対応を行っている。	法人全体で接遇に取り組んでいる。職員同士が注意し合える環境を作り、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛け、対応を行っている。		介護士会議にて、接遇面の指導が行われている。方言を使用したり、くだけた言葉でも語尾を上げるなどして、あたたかい接遇を心掛けられている。現場で何かあれば、その都度管理者が介入されている。 コロナ禍以前は、法人会議で、「良い接遇をした職員の行動発表」などもされていたとの事。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のお喋りの中でその方の思いや希望をさり気なく聞き、自身で決める事が出来るような言葉掛けを行っている。	日常のお喋りの中でその方の思いや希望をさり気なく聞き、自身で決める事が出来るような言葉掛けを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位の支援を心掛け、その方にあった日常の過ごし方を話し合いを行いながら実践している。	ご利用者本位の支援を心掛け、その方にあった日常の過ごし方を話し合いを行いながら実践している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時、起床時には着替えを行い、ご自身で準備をされる方を除き職員が洋服等の用意を行っている。起床時には全員洗顔、口腔ケア、整髪など行い、身だしなみを整えている。	就寝時、起床時には着替えを行い、ご自身で準備をされる方を除き職員が洋服等の用意を行っている。起床時には全員洗顔、口腔ケア、整髪など行い、身だしなみを整えている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の中、ご利用者と職員と一緒に食事をする機会はなくなりましたが、ご利用者の好みは把握できている。食事の準備は一緒に出来ていないが、食器拭きやお膳拭き等の後片付けは一緒に行っている。	コロナ禍の中、ご利用者と職員と一緒に食事をする機会はなくなりましたが、ご利用者の好みは把握できている。食事の準備は一緒に出来ていないが、食器拭きやお膳拭き等の後片付けは一緒に行っている。	併設施設の管理栄養士が作成した献立で調理員が作成されたものを、グループホームに運ばれて提供されている。朝の味噌汁と、ミキサーにかけるなどの形態調整はホームでされている。リクエスト等あれば、食事を止めて、グループホームで一から作成する事もある。水分補給時は、牛乳やコーヒー、紅茶など種類の飲み物を用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立のもと、バランスのとれた食事を提供出来ている。ご利用者の状態に合わせ食事形態をその都度変更している。水分補給の時間以外にも嗜好品を提供し、十分な水分が摂れるよう支援している。	併設施設の管理栄養士の献立のもと、バランスのとれた食事を提供出来ている。ご利用者の状態に合わせ食事形態をその都度変更している。水分補給の時間以外にも嗜好品を提供し、十分な水分が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。歯磨き粉以外に洗口液を使用している。就寝前は磨き残しがないか確認をしながら介助を行っている。	毎食後の口腔ケアを行っている。歯磨き粉以外に洗口液を使用している。就寝前は磨き残しがないか確認をしながら介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を確認し、一人一人にあった排泄パターンを把握し、誘導を行っている。座位の取れる方は基本トイレ誘導を行っている。	排泄表を確認し、一人一人にあった排泄パターンを把握し、誘導を行っている。座位の取れる方は基本トイレ誘導を行っている。	排泄パターンの把握で、入居時紙パンツを使用されていた方が布パンツになったり、失禁が減った方がいる。ポータブルトイレが必要な方はグループホームで準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷たい牛乳の提供、一日に必要な水分の提供を行っている。体操や腹部マッサージを行い、自然排便を促している。	起床時の冷たい牛乳の提供、一日に必要な水分の提供を行っている。体操や腹部マッサージを行い、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状態に合わせて普通浴、機械浴を取り入れている。入浴を拒否される方に対しては時間をずらしたり毎日の言葉掛けを行なっている。介助が不要の方に対しては見守りを行っている。	状態に合わせて普通浴、機械浴を取り入れている。入浴を拒否される方に対しては時間をずらしたり毎日の言葉掛けを行なっている。介助が不要の方に対しては見守りを行っている。	入浴は週3回以上。お風呂自体は毎日朝から夕方まで稼働されている為、希望や状態によって毎日でも入浴可能。曜日や時間、順番は決まっていない。機械浴は一人ひとりお湯の入れ替えをするようになっている。また、入浴日以外でも、全更衣はされており、清潔保持に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペース、状態に合わせて居室静養の言葉掛けや案内を行っている。寝具調節、安楽な姿勢で休むことができるようクッション等を使用している。	ご本人のペース、状態に合わせて居室静養の言葉掛けや案内を行っている。寝具調節、安楽な姿勢で休むことができるようクッション等を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。既往歴の把握、薬剤情報提供書は、一人一人ファイルに綴り、確認できる状態にしている。	服薬管理は職員が行っている。既往歴の把握、薬剤情報提供書は、一人一人ファイルに綴り、確認できる状態にしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活されるようご本人の好まれる作業（裁縫、洗濯物畳み、食器拭き等）を職員と一緒にやっている。楽しみにされている歌番組は録画し、いつでも視聴できるよう支援している。気分転換されるよう外気浴、ユニットの交流を行っている。	役割を持って生活されるようご本人の好まれる作業（裁縫、洗濯物畳み、食器拭き等）を職員と一緒にやっている。楽しみにされている歌番組は録画し、いつでも視聴できるよう支援している。気分転換されるよう外気浴、ユニットの交流を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はほぼ出来ない。車を降りないドライブは行っていた。受診に関しては感染予防を行い、ご家族と一緒に出掛けられる。	コロナ禍で外出はほぼ出来ない。車を降りないドライブは行っていた。受診に関しては感染予防を行い、ご家族と一緒に出掛けられる。	コロナ禍でも、降車しないドライブは行われており、こいのぼりやアジサイ、紅葉などを見に行かれていた。オミクロン株が流行してからは感染力が高い為、ドライブそのものを中止されている。天気が良い時は、感染対策の上で、近隣の散歩や玄関先での日向ぼっこをされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族が行われている。日用品、嗜好品の買い物は、小口金を預かり、職員が行っている。	金銭管理はご家族が行われている。日用品、嗜好品の買い物は、小口金を預かり、職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で、面会が中止となりご家族から様子伺いの電話がかかってきた際は、ご利用者に取り次ぎを行っている。また、ご本人様からの要望があれば職員がご家族などに電話をかけている。	コロナ禍で、面会が中止となりご家族から様子伺いの電話がかかってきた際は、ご利用者に取り次ぎを行っている。また、ご本人様からの要望があれば職員がご家族などに電話をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA (南) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(北) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光、音、室温、湿度等は調整を行っている。フロアに湿温度計を設置している。フロアには季節ごとの花を飾り、庭の木々を眺める事で季節感をあじわって頂いている。	光、音、室温、湿度等は調整を行っている。フロアに湿温度計を設置している。フロアには季節ごとの花を飾り、庭の木々を眺める事で季節感をあじわって頂いている。	窓ガラスや換気扇は、業者だが、その他の清掃は職員が行っている。現在、コロナ対策として手すり等の消毒もされている。フロアにはテレビやソファがあり、入居者の方が書いた書道を掲示されていた。3月にはさげもんなど、季節の飾りつけをされるとの事。また、テーブル席は、一人ひとりの介助量や人間関係を見て決められており、必要時は席替えもされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置しているので、馴染みの方と一緒に録画番組を観られたりお喋りを楽しめるような空間作りの工夫を行っている。	フロアにソファを設置しているので、馴染みの方と一緒に録画番組を観られたりお喋りを楽しめるような空間作りの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、安心感を持ち、心地よく過ごして頂くために使い慣れた品々を持って来られる。ご本人、ご家族の好みに配置されている。写真や置物等も持参される。	入居される際は、安心感を持ち、心地よく過ごして頂くために使い慣れた品々を持って来られる。ご本人、ご家族の好みに配置されている。写真や置物等も持参される。	ベッド・寝具・カーテンはホームの備え付けであり、必要であれば、エアーマットやポータブルトイレも準備される。それ以外は危険物以外であれば持ち込み可能であり、テレビや家具の持ち込みがある。自宅で使用されていた木製筆筒やお位牌、写真やプレゼント等の持参もある。家具の配置は基本はご本人とご家族に任せているが、状態を見て必要があれば、職員も配置換えをされる。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA（南） （事業所記入欄）	自己評価／ユニットB（北） （事業所記入欄）	外部評価 （評価機関記入欄）	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からず不安になれないように文字や飾り物を使用し自立支援を促している。	場所が分からず不安になれないように文字や飾り物を使用し自立支援を促している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)			1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない